



満蒙開拓研究の茫洋たる水面に気鋭の研究者が一石を投ずる

満洲農業開拓民

「東亜農業のショウウィンドウ」建設の結末

今井良一 著
Ryoichi Imai

満蒙開拓あるいは満洲開拓とは、当初は日本内地の過剰人口対策（貧農対策）、満洲の「治安」対策、そして対ソ防衛としての性格が強かった。特に「治安」対策・対ソ防衛の役割は終戦まで重視され、開拓民の5割が満洲国とソ連との国境沿いに、4割が、当時、「匪賊」であるとか「馬賊」とよばれた反満抗日部隊の活動地域に入植した。

その後、満蒙開拓の最大の目的は、次第に帝国圏（円ブロック）における食糧確保へと変化していくが、それはいずれにしても東アジア農業のモデル（＝「東亜農業のショウウィンドウ」）として、内地では到底望むことができなかった近代的大農業経営を、満洲の地に確立するという「大義名分」のもとに、「帝国」日本が威信をかけて取り組んだ国家的大プロジェクトであった。

農民であるはずなのに、その部分を抜きにして語られることも多い「満洲」農業開拓民であるが、はたして彼ら・彼女らは、理想とされた農業を営むことができたのであろうか。

（本書「序章」より）



目次

序章 課題と方法

- 第1節 「満洲」農業開拓民政策の概要
- 第2節 研究史と本書の課題

第I部 試験移民期(1932～1935年)

第1章 共同経営および共同生活の解体と森林資源収奪

—第1次試験移民団弥栄村を事例に—

はじめに

- 第1節 第1次試験移民団の編成と入植
- 第2節 部落単位共同経営および部落単位共同生活の実態(1932～1935年)
- 第3節 組単位共同経営および組単位共同生活の実態(1936年)
—農作業の合理的単位の解体—
- 第4節 未熟な小農経営と森林資源収奪(1937年～)

おわりに

第2章 試験移民における地主化とその論理

—第3次試験移民団瑞穂村を事例に—

はじめに

- 第1節 雇用労働力への依存と商品作物栽培への特化
—雇用労働依存経営の論理—
- 第2節 雇用労賃の高騰と農業経営における労働粗放化
—地主化の論理—
- 第3節 生活改善政策の未整備と影響

おわりに

第II部 大量移民政策期(1937～1945年)

第3章 北海道農法先進開拓団の農業経営と生活

—第7次北学田開拓団および第6次五福堂開拓団を事例に—

はじめに

- 第1節 農業経営の急速な衰退 —第7次北学田開拓団を事例に—
- 第2節 北海道農法導入の限界 —第6次五福堂開拓団を事例に—
- 第3節 農具、役畜、普及員、満洲現地研究機関の問題点

おわりに

第4章 分村開拓団における試験移民以上の地主化

—長野県泰阜分村第8次大八浪開拓団を事例に—

はじめに

- 第1節 泰阜分村大八浪分村開拓団の編成
- 第2節 共同経営および共同生活の早期解体(1940～1941年初頭)
—試験移民より早い個別化—
- 第3節 家族経営の破綻と農業経営の低迷(1941年～)
—試験移民以上の地主化—
- 第4節 生活資金の急激な欠乏と生活程度の低下
—試験移民以上の生活の悪化—

おわりに

第5章 満洲開拓青年義勇隊派遣の論理と混成中隊における農業訓練の破綻

はじめに

- 第1節 混成中隊の編成
- 第2節 混成中隊の組織的破綻とその理由
- 第3節 混成中隊における農業技術指導体制の不備
- 第4節 農業訓練に対する生活上の問題

おわりに

第6章 満洲開拓青年義勇隊郷土中隊における農業訓練

—第5次義勇隊原中隊を事例に(元隊員への聞き取りから)—

はじめに

- 第1節 第5次郷土中隊原中隊の編成
- 第2節 共同意識の欠如とその理由
- 第3節 農法習得の阻害要因
- 第4節 生活指導体制の不備とその影響

おわりに

終章 総括

- 第1節 試験移民における問題点
- 第2節 北海道農法導入の試み —逆効果の対処策①—
- 第3節 分村政策 —逆効果の対処策②—
- 第4節 義勇隊における農業訓練 —逆効果の対処策③—
- 第5節 開拓民の寄生的性格
- 第6節 後継者について
- 第7節 今後の課題

あとがき

人名索引／事項索引

●著者紹介

今井良一(いまいりょういち)

1972年生まれ。2004年京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻博士後期課程満期退学。現在、関西学院大学、神戸親和女子大学、関西国際大学、姫路獨協大学非常勤講師。博士(農学、京都大学)。専門分野は近代日本農業史、環境問題、地理学。

主要著書

- 『実学としての科学技術』『岩波講座「帝国」日本の学知』第7巻(共著、岩波書店、2006年)
- 『満洲泰阜分村—七〇年の歴史と記憶』(共著、不二出版、2007年)
- 『日本帝国圏の農林資源開発—「資源化」と総力戦体制の東アジア—』『農林資源開発史論II』(共著、京都大学学術出版会、2013年)
- 『低線量放射線の脅威』(共訳、鳥影社、2013年)
- 『環境教育学と地理学の接点』(ブイツーソリューション、2015年)

●著者：今井良一

●体裁：A5判・上製

●頁数：240頁

●定価：本体3,000円＋税
ISBN978-4-908976-65-0

●刊行：2018年1月

吉田山叢書のご案内



吉田山叢書

新しい叢書を立ち上げました。個性豊かで清新で、後世に残るシリーズを目指し、若い研究者の皆様の原稿を募集しております。お気軽にお問い合わせください。

- ◆文学・歴史・芸術・哲学・教育など主に人文科学分野
- ◆論文・評論・随想・物語などのジャンルは不問です
- ◆博士論文の出版や共著でも結構です

三人社

〒606-8316

京都市左京区吉田二本松町4 白亜荘

電話 075-762-0368

FAX 075-762-0369

ご注文は書店様または直接上記までお申し込みください。